

徳川園の管理運営状況

1 基本情報

<所管局：緑政土木局>

指定管理者名	徳川の杜グループ		
主な業務内容	徳川園の管理運営業務		
施設の所在地	名古屋市東区徳川町1001		
評価対象期間	平成31年4月～令和2年3月	指定管理期間	平成30年4月～令和4年3月

2 評価結果

評価項目		評価区分	特記事項	
管理体制及び協働	1 管理体制	○	研修を多数実施し、適切な人材育成を行っている。また、ガイドボランティアの育成・協働に力を入れている。 幼稚園・小中学校・高校と教育施設との連携も積極的に行っている。	
	職員配置 緊急時の体制 人材育成等			
	2 協働		市民等との協働	
維持・管理運営等	1 維持管理	◎	落葉清掃等細やかに実施されている。また、垣根や側溝の高圧洗浄機による清掃など予防保全が行われている。 きめ細やかな病害虫対策がされている。 松・藤・牡丹・花菖蒲等、植物の特性に合わせた剪定・管理がされており、美しく保たれている。 大池（龍仙湖）の水質改善に力を入れている。	
				園内清掃
				建物・設備の管理
				保守・点検・修繕
				植物管理
				管理水準の維持
	2 運営管理	○	アンケートを適切に実施・分析し、意見を反映させている。 夏場にミストを設置する、一輪挿しを飾る、写真スポットを魅力的に演出するなど、利用者目線で様々な工夫がされている。	
				利用者アンケートの実施
				利用者ニーズの把握と反映
				利用者サービス向上策
				接客・接客向上の取組み
	3 この施設特有の管理	◎	新規植物を導入・撤去した虎仙橋の床材をベンチ等に再利用するなど様々な創意工夫した。 名古屋の歴史文化拠点としての魅力発信として、年間を通じてイベントを開催し、その都度、雛飾り、鯉のぼり、花餅など、園内随所に季節感のある演出を実施。 イベント広報にも力を入れている。（報道各社へのニュースリリース、ポスター・チラシの魅力向上、美術館・蓬左文庫との連携、SNSの活用）	
				庭園の管理
4 魅力増進・利用促進	◎	新規植物を導入・撤去した虎仙橋の床材をベンチ等に再利用するなど様々な創意工夫した。 名古屋の歴史文化拠点としての魅力発信として、年間を通じてイベントを開催し、その都度、雛飾り、鯉のぼり、花餅など、園内随所に季節感のある演出を実施。 イベント広報にも力を入れている。（報道各社へのニュースリリース、ポスター・チラシの魅力向上、美術館・蓬左文庫との連携、SNSの活用）		
			魅力の増進策	
			イベント等の実施	
			利用者への広報・情報提供の実施	
5 収納金の処理業務	○	収納金の処理業務について、閉園後すぐに各窓口で確認作業を行うが、さらにその後管理事務所でも担当者を変えたうえで確認作業を行う等工夫を行っている。		
			現金等の取扱い	
自主事業	○	自然豊かな園を生かした「昆虫王国」「庭園講座」の実施。また「黒門くらふと市」「鯉えさの販売」「和菓子販売」等を実施し、昨年度以上の収益を上げ、翌年度に全額還元。		
			事業計画に基づく自主事業の実施	
			集客対策への効果	
収支	○	直営作業による維持管理・修繕工事を積極的に実施。敷き藁（花菖蒲等）、もみ殻（牡丹・花菖蒲マルチング材）を無償提供で利用。		
			経費節減策	
その他	○	法令・協定の遵守 事業計画との比較分析		
			年間収支	

【総合評価】

きめ細やかな植物管理等を実施することにより、日本庭園の魅力保持に努めており、季節感のある様々なイベントを改良しながら開催している点は評価できる。
 また、SNSを始めとした広報・情報提供に力を入れるとともに英文発信やポケットークを導入し、外国人来園者のサービス向上に努めている。今後のインバウンド回復に向け、さらなるサービス向上に取り組むことを期待する。
 新たに商店街との連携に取り組み、集客力向上に努めたが、これからもさらに連携先を広げて欲しい。

施設の現状

徳川園

施設の現状	施設概要							
	<p>名古屋城本丸の東約3kmの地にある徳川園は、徳川御三家筆頭である尾張藩第二代藩主光友が、元禄8年(1695)に自らの隠居所として大曾根屋敷を造営したことを起源としています。光友の没後、この地は尾張藩家老職の成瀬、石河、渡邊三家に譲られました。明治22年(1889)からは尾張徳川家の邸宅となりました。昭和6年(1931)名古屋市は、第十九代当主義親から邸宅と庭園の寄付を受けた後、改修整備を行い、翌年「徳川園」として一般公開しましたが、第二次世界大戦の大空襲によってほとんどの建物や樹林などが焼失してしまいました。</p> <p>戦後、現代的な都市公園として改修し、市民に利用されてきた徳川園は、平成13年(2001)から日本庭園として再整備を行い、平成16年(2004)に開園しました。</p> <p>当園は、矢田川の河岸段丘を生かした高低差のある地形、既存の照葉樹の森、立体的に迫る大きな岩組みが特徴で、変化に富んだ景観を劇的に展開する構成としています。</p>							
	市の収支状況(千円) (元年度決算見込み額)							
	支出			収入				利用料金
	指定管理料	その他	計	使用料	その他特定財源	一般財源	計	
	127,315	-	127,315	64,936	9,248	53,131	127,315	—
	特記事項							
	平成22年度から指定管理者制度を導入							
	管理運営指標の状況	取組状況						
		指標	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
入園者数		人	320,335	300,027	337,986	330,850		
利用者1人あたり運営費		円	366	391	370	385		
特記事項								

※支出のうち「その他」欄は、経常修繕費を記載